

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071401717		
法人名	株式会社 あおいホーム		
事業所名	グループホームあおい		
所在地	福岡市早良区西入部2-7-20 (電話) 092-803-0381		
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 16 日	評価結果確定日	令和 4 年 12 月 23 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ・「その人らしく」個別ケアの徹底
- ・見て、食べておいしい食事（厨房手作り・無添加）
- ・歌と体操（毎日）
- ・季節ごとの行事

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 4 年 11 月 10 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

東側に油山、事業所の傍には室見川が流れ、西側には緑豊かな脊振山系を有する豊かな自然に囲まれている。事業所は2階建ての木造住宅で、1階と2階にグループホームがあり、1階には通所介護事業所が併設されている。職員がメニューを考えて、手作りの食事を毎食提供しているほか、事業所の広い庭には菜園があり、そこで採れた新鮮な野菜が食卓を飾ることもある。職員は利用者の尊厳を大切に考え、一人ひとりに個別ケアを丁寧に行い、アットホームな雰囲気の中で、利用者が居心地よく楽しく過せるよう努めている。また、医療や訪問看護と連携して、利用者や家族の思いに寄り添いながら看取りにも取り組んでいる。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく」穏やかに暮らしていける個別ケアの徹底について、職員はすべて意識して実践している。	施設長は、理念について、ミーティング時等、折に触れて職員に伝えている。職員は利用者に寄り添い、地域でその人らしく過ごせるよう、利用者やその家族を大切に考え、個別のケアを徹底して、日々理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベントを通じて、地域交流を図り、有事にはサポート連携できる関係を構築できている。	コロナ禍前は、事業所主催の秋祭りに地域の子どもや自治会、地域住民の参加やボランティアの受け入れがあったが、現在は地域主催の敬老会に職員が参加したり、地域の公民館の集まりに施設長が参加して、地域と交流している。地域住民の方から畑で採れた野菜のおすそ分けをいただく等、地域との繋がりを大切に考えて取り組んでいる。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域自治会との関係性も良好で、行事にも招待されている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	内部でのケース検討会による気づきの発見はもちろんのこと、外部評価の客観性についても、さらに重視しているので、職員間に周知して見直しを図る機会として尊重している。	コロナ禍のため、施設長や主任、リーダー、デイサービス管理者で開催し、利用者の状況等を報告し、家族代表者には議事録を送付し、感想や意見をもらっている。今回は地域包括支援センターや自治会、老人クラブ、訪問看護ステーションを招いて、対面での運営推進会議を開催する予定である。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	外部評価・指定更新・事故報告の機会など、慎重かつ丁寧にすべて適切に対処している。	事業所の実情の報告や相談を随時行っている。今後、年2回作成している事業所便りも行政に持参し、事業所の取組等について積極的に伝えていく予定である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部・内部の研修を徹底し、委員会が主導となって、職員への啓発とともに、正しいケアを実践している。	日中は玄関を施錠せず、職員が見守りを行っている。離設があった際は地域住民から連絡が入る等、協力体制を築いている。外出傾向のある利用者には傾聴し、一緒に散歩する等して寄り添っている。身体拘束委員会を設置して、職員が身体拘束に関する意見交換を行い、フィードバックを行う等、事業所全体で取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	外部・内部の研修を徹底し、職員への周知とともに、細心の注意をもって取り組んでいる。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者の生活背景を十分に理解したうえで、適切な介護サービスができるよう制度の理解と活用を職員間で周知し、職員の意識も高い。	権利擁護に関する制度に関して利用者や家族に契約時に説明している。職員は、外部研修に参加する機会があり、研修記録や報告書が整備されている。研修のテキストを用いて、内部で伝達研修が行われている。権利擁護虐待防止委員会を設置して、意識を持って取り組んでいる。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に懇切丁寧に説明を行うことでご理解いただき、ご納得されるよう細心の注意をもって対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を重視し、ご家族からのご意見や励ましを職員で共有することで、日々の介護に役立てている。	職員は、利用者のしぐさや表情から希望や意向、その時の気持ちを推測している。家族の来訪時や電話の際には、意見や要望を聴けるよう積極的に声かけを行っている。コロナ禍で家族の面会制限があったが、窓越し面会から取り入れ、現在では事業所の外に面会スペースを設置し、直接面会できるようにする等、意見を運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営上の決断は代表者が責任を持って常に行っているが、時に、職員の意見を参考にすべく傾聴する。	ミーティングや職員会議で、行事の企画や利用者のケアの方法等について、職員の意見を聞いている。職員の意見を基に、利用者本位に検討して運営に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会話や面談機会を通じて、意見に耳を傾け、就業環境の整備に尽力している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>公明正大に職員募集および採用を実践し、就労条件に不利益が生じないよう慎重かつ丁寧に対処している。</p>	<p>職員の採用にあたっては、年齢や性別等を理由に採用から排除せず、働く意欲ややりがいをもって仕事に取り組める方を採用している。アットホームな雰囲気働きやすい職場環境を整えるよう配慮している。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>委員会を設置し、定期的な会議を通じて職員全体にも啓発している。</p>	<p>研修計画が立てられ、職員は外部の人権研修に参加する機会がある。研修のテキストやパンフレット、研修記録、報告書が整備されている。外部研修に参加した職員が伝達研修を開催したり、テキストを回覧する等、全職員が理解を深められるよう努めている。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部（オンライン）・内部研修の機会を確保し、介護の質の向上を目指している。</p>	/	/
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の介護事業所のネットワークに参加し、会議などを通じて意見交換をしている。</p>	/	/
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の面談により、ご本人が困っている事、不安に思っている事、要望などをできるだけ詳しく伺い、安心して生活して頂ける様、信頼関係を築けるように努めている。</p>	/	/
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の事前面談により、ご家族がどんな事に困っているのか、不安に思われている事やホームに入られてからどのように生活してほしいのか、ホーム側への要望を伺い、安心して頂ける様に努めている。</p>	/	/

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に生活スタイルおよびサービス内容を説明し、ご理解をして頂いたうえで、ご本人・ご家族の希望に合うかを判断して頂いている。個別の要望には、可能な限り応えられるに努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各入居者の能力・状態に合わせてた支援を行い、日々、様々な場面でコミュニケーション・スキンシップをして信頼関係を築き、良い関係ができています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際はご家族へ参加を呼びかけていたが、コロナの影響により、共に時間を過ごすことができない。お写真やお手紙により近況報告を行うことで、ご家族に身近に感じて頂けるよう配慮を行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚・知人の方々の来訪時には、ゆっくりお話できるようにセッティングしている。安心して頂ける様、近況などをお話し、ご家族から頂いた要望や情報を職員に伝え、共有し、サービスに活かしている。	職員は利用者の生活歴や馴染みの場所や人について、利用者との日々の会話や家族からの聞き取りによって把握に努めている。昔からの友人の訪問があった際には、家族に関係性を確認して取り次いでいる。家族や友人からの電話や手紙を取り持って、馴染みの人との関係性が途切れないように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の人間関係を把握し、自然な関係を持つことができるよう見守りに重点を置いている。また、入居者が入居者のお世話をするなど、心が和む光景をみることができる。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を退居されても、ご家族が立ち寄るなど、近況を知らせてくださる。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人のご意向はもちろんのこと、ご家族のご意向を大切にするため、ご家族との連携を密にし、ご意向に添ったケアができています。	入居時に利用者や家族からの情報提供やアセスメント等の情報を基に、利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。また、意向の把握が困難な利用者には、日々の暮らしの中で本人本位の支援が行われている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を把握し、その方に合った快適な生活ができるように支援を行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方にとって、やりたい事を一緒になって考え、行い、心身状態に合わせて無理なく一日を穏やかに過ごして頂ける様に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日中も夜間も入居者の状態変化時（異常時）は家族や訪問看護師、施設長に報告を行うとともに、スタッフ間でより情報を共有できるようにする。その上で訪問看護師やかかりつけ医とも連携を図って、介護計画の作成や修正を行っている。	介護計画の作成やモニタリングについては、関係者間で話し合い、それぞれの意見等を踏まえ、本人や家族の意見を反映して作成している。また、介護計画の見直しは、3ヶ月ごとに実施されている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを記録し、月一回の職員会議の中で介護計画の見直しや情報共有を行い、介護計画に活かすことができる。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	大きな行事は、グループホームに併設するデイサービスと一緒にいき、出来るだけ助け合い、柔軟な支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	秋祭りでは地域の方々をお招きし、クリスマス会などの行事には、ご家族をご招待して、一緒に楽しむことができるよう支援を行ってきたが、コロナ禍でできなくなっている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・精神科・歯科・眼科の定期的往診を受けている。受診は、十分な情報共有で家族の不安を取り除き、夜間に受診が必要になった利用者が出た場合、訪問看護師を通じて、医師からの適切な医療を受けられるよう支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医を受診することができる。内科、眼科、歯科、精神科は定期的にホーム内で受診している。また、訪問看護ステーションとの医療連携により、緊急対応がとられている。日頃の健康チェックは、看護スタッフによる支援が行われている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフ全員が情報共有できるように、口頭での申し送りや申し送りノートを使用している。利用者に状態変化がある時は、訪問看護に連絡し、指示のもと適切な支援を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は、安心して治療ができるよう、訪問看護師や家族と十分な情報共有をし、往診時には医師への報告や早期に通院できる指導など、何でも気兼ねなく相談できる在宅医である。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族とは、お会いした時など機会があるごとに少しずつお話を重ねていき、重度化してきた段階で、主治医・訪問看護師を交えて、ご家族・ご本人様の意向を伺い、ご要望に添うよう、治療方針や看護・介護の方針などを確認し合っている。	入居時に「看取りに関する指針」を基に利用者や家族に説明し、同意を得ている。利用者の状態変化に応じて、早い段階から、家族の意向等を確認し、職員や医療スタッフ、訪問看護ステーションと連携しながら、支援の方法等の情報共有が行われている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時、初期の対応（訪問看護ステーション・医師）連携など、職員は実践力を身につけており、外部での研修や内部研修などを随時行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、時間（夜間・日中）、出火場所などを設定し、避難訓練を行っている。地震・水害についての備えも近隣の消防学校と協力している。	消防署の協力のもと、年2回、防災訓練や夜間想定を含めた避難訓練が実施されている。事業所内に非常災害用の非常食や飲料水、備品等が準備されている。近くに消防学校があり、災害時に協力いただけるよう体制を整えている。また、災害対策委員会を設置し、非常時の対応等について意見交換を行っている。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時折、馴れ馴れしい言葉遣いをしていることがある。朝食に関しては、睡眠時間などに合わせて、利用者それぞれの時間で提供している。	入浴や排泄、声かけ、居室訪問等、デリケートな支援には、尊厳やプライバシーの保護について配慮している。人権擁護委員会や接遇関連の研修等の機会を通じて、職員の人権意識の啓発と向上に取り組んでいる。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞き、それに添えるように心がけている。また、日ごろの会話や動作から思いをくみ取れるように心がけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握し、希望に添えるよう心がけている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の一人ひとりの個性を尊重した髪型や服装を支援している。季節の行事では、お化粧品やアクセサリなど、おしゃれをして参加して頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材など話題に取り入れ、楽しい雰囲気での食事を心がけている。行事食や屋外食で雰囲気や見た目の盛り付けにも工夫している。	食事は日々の暮らしの中での大きな楽しみの時間と捉え、メニューや食材、催し等に調理スタッフと共に工夫して取り組んでいる。職員は利用者一人ひとりの嗜好を把握し、献立に取り入れながら栄養バランスにも配慮している。事業所の菜園で収穫した新鮮な野菜が食卓を彩ることもあり、利用者の楽しみとなっている。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態を取り入れ、嚥下状態が低下している方には、とろみをつけたり、その方にあった摂取量・栄養バランス・水分量の支援を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの能力に応じ、援助している。声かけしながら口腔内を観察し、残渣物があれば、スポンジブラシなどで取り除き、磨き残しには、介助を行っている。義歯利用の利用者には、夜間義歯洗浄剤で消毒を行っている。現在、歯科医師より、口腔ケアが良いとの評価をもらっている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのトイレ誘導やパット交換を行い、失禁の回数を減少させるため排尿パターンを把握し、尿意を訴えるサインを見つけたら、すぐにトイレ誘導を行う。パット内失禁がなく、トイレ排尿ができた時は、嬉しい声かけを行っている。夜間トイレ排泄可能な利用者に対しては、状況を見ながら、トイレ誘導を行っている。	トイレはユニットごとに3ヶ所あり、車椅子の介助が余裕をもってできるスペースが確保されている。排泄チェック表をもとに、利用者一人ひとりの排泄パターンに応じた支援が行われている。夜間帯においても、トイレでの排泄を支援する等、自立に向けた支援に努めている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操・リハビリ体操・日常生活活動を利用しながら、便秘による食低下や体力低下や嘔吐などをまねかないように、利用者に合わせた水分摂取や補給を行っている。ある程度は排便時間を予測できる利用者も数名いらっしゃる。状態に応じて、腹部マッサージなどを行い、トイレでの排便支援を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本的に入浴は午後に行っていて、入浴前にバイタル測定を行なっている。入居者一人ひとりの入浴のあり方を把握している。	入浴は週に2～3回を基本としているが、希望があれば、いつでも入浴可能である。その他、シャワー浴や清拭、足浴等も併用している。入浴を望まない利用者に対しては、言葉かけや対応等を工夫しながら、一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前・午後に休息を設けたり、2時間以内の休息を設け、入居者一人ひとりの状況に応じて、支援している。夜間は、就寝する時間に合わせて入眠していただき、1時間ごとの巡回を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の追加や変更や中止があった時には、申し送りノートでスタッフ間はもとより訪問看護師にも共有している。色ごとに薬の用法・用量や服薬日時を分け、服薬時にはスタッフ間で声かけを行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味を把握し、楽しく生活できるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に配慮して、できる限り外気浴や喫茶・外食をとり入れている。中庭が広く、草花を見て、特に女性が喜ばれ、天候が良いときは戸外へと希望もあり、十分な支援を行うことができている。	コロナ禍前は買い物や外泊、季節ごとの外出レクレーション等を行っていた。現在は天候や利用者の希望に応じて、事業所の庭園の散歩や外気浴を行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができないため、購入希望があれば、ご家族の了承を得て対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話したり、手紙のやりとりはできないが、ご家族からの電話を取り次いで、会話を楽しんでおられる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間の整理整頓に努め、壁に行事の写真や花の貼り絵などを掲示して楽しんでいる。テーブルや玄関に花を飾り、庭には季節の花や畑に野菜を植え、収穫して食べて頂いている。食堂から風景を眺め、自然の変化も楽しむことができる。	共用空間は、利用者一人ひとりの希望に添った配慮や寛ぎのスペースが確保されている。リビングからは山や川、田園風景を間近に望むことができ、解放感や季節感が得られ、居心地良く過ごせる空間づくりに工夫がある。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室には、家族の写真やバースデーカードなどを壁に飾り、穏やかに安心して過ごしていただけるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や写真、置物などを置いている。自宅で過ごしていた頃のように穏やかに過ごすことができている。	安全・安心を重視し、清潔な居室環境となっている。家族と相談して、入居前に使用していた家具調度品や思い出の写真等が配置され、利用者一人ひとりの希望や個性に合わせた部屋づくりとなっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態変化に合わせ、使用するトイレやテーブル席や浴室など、できるだけ安全に動くことができるように工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己	外部		
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）			
			④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく」穏やかに暮らしていける個別ケアの徹底について、職員はすべて意識して実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベントを通じて、地域交流を図り、有事にはサポート連携できる関係を構築できている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域自治会との関係性も良好で、行事にも招待されている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	内部でのケース検討会による気づきの発見はもちろんのこと、外部評価の客観性についても、さらに重視しているので、職員間で周知して見直しを図る機会として尊重している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	外部評価・指定更新・事故報告の機会など、慎重かつ丁寧にすべて適切に対処している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部・内部の研修を徹底し、委員会が主導となって、職員への啓発とともに、正しいケアを実践している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部・内部の研修を徹底し、職員への周知とともに細心の注意をもって取り組んでいる。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者の生活背景を十分に理解したうえで、適切な介護サービスができるよう制度の理解と活用を職員間で周知し、職員の意識も高い。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に懇切丁寧に説明を行うことをご理解いただき、ご納得されるよう細心の注意をもって対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を重視し、ご家族からのご意見や励ましを職員で共有することで、日々の介護に役立てている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営上の決断は代表者が、責任を持って常に行っているが、ときに、職員の意見を参考にすべく傾聴する。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会話や面談機会を通じて、意見に耳を傾け、就業環境の整備に尽力している。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>公明性大な職員募集および採用を実践し、就労条件に不利益が生じないよう慎重かつ丁寧に対処している。</p>		
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>委員会を設置し、定期的な会議を通じて職員全体にも啓発している。</p>		
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部（オンライン）・内部研修の機会を確保し、介護の質の向上を目指している。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の介護事業所のネットワークに参加し、会議などを通じて意見交換をしている。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の過去の生活歴を知り、人柄を理解し、思いを傾聴し、希望にそえるように、いつでも声かけ・相談ができるような関係づくりに努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の思いや考え方・不安なことなどに耳を傾け、日ごろよりキーパーソンへの近況報告を密に行い、関係づくりに努めている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活歴や家族の希望を聞き、ホームの特徴を伝え、他のサービスも可能であることを伝える。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの状態に合わせ、入居者と職員が共有することで、支え合う関係が構築できている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で、面会も思うようにはできず、窓越しでの制限付きの面会となっている。その分、近況報告を密に行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍での制限つき窓越し面会ではあるが、声を聞いたり表情を見て安心されている。今できる支援を行っている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の性格や相性を考慮して、席を決めたりして、関わるようにしている。スタッフが、間に入って対応している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退居された方でも、そのご家族が立ち寄ってくださったり、お礼状・年賀状を頂くなどして近況を知ることができている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人に寄り添い、ご希望やご意向に沿った生活を送ることができるようにしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や思い出について、ご本人・ご家族から伺い、その上で、サービス提供できるように心がけている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者のペース・心身状態に合わせ、一日を不安なく楽しく過ごしていただけるように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスや、状況変化時のご家族・スタッフとの話し合いの機会を設定し、検討している。また、訪問看護師・主治医に意見を求めて介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子やケアチェック、結果や気づきを記録している。毎朝の申し送りや情報の共有を図り、計画の見直しを必要とする時は、ミーティングを行い介護計画に活かすことができている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で、思うように面会ができず、窓越しでの制限つきの面会となっている。デイサービスとの交流もできていない。屋内での行事は、積極的に行い、毎日のレクリエーションは各ユニットで行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外出できず、施設内行事のみとなっている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族に内科・精神科・眼科・歯科の往診が受けられることを説明し、ご家族の意向も踏まえて、納得の上、主治医を決定する。また、訪問看護師と24時間連携していることも説明している。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護、介護職は、日常の関わりの中で気づいたことを常に共有し、相談できる体制となっている。緊急時は、訪問看護に連絡し、適切な指導を受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にホームの主治医・訪問看護師・職員のすべてが関わり、安心して治療に専念できるよう、医療機関とも密接に情報交換を行っている。退院時には、アドバンスケアプランニングを実施し、より良い関係づくりを行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについての話し合いをもって、ご家族のご意向を伺い、看取りについても説明を行い、方向性について確認を丁寧に行っている。訪問看護師のサポートがあって、ご家族からの信頼も大きい。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で、外部研修は実施できていないが、施設内での内部研修によって、救急対処法について再確認し、実践力を養っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。そのうち1回は、消防署立ち合いのもとで実施している。地震・水害などに備えて、避難経路についても周知している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室訪問時、ドアをノックしたり、声かけを行っている。フロアに居られる時は、「〇〇をするために居室に入らせていただきますね」と声かけをするよう心がけている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情や動きを観察し、訴えや思いを、常に、考えながら対応できるよう心がけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活歴に合わせて、希望に沿えるよう見守りや支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベント時には、化粧など本人らしく明るい服装で楽しんで頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好きなもの、嫌いなものを記録し、食材・メニューの考案・説明を行い、楽しんでお食事できるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂食状態の観察を行い、身体機能にあった食材を提供し、水分飲用には、お茶およびお好みの物を提供し、一日のトータル摂取量を記録している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に合わせ、毎食後、口腔内のチェックを行っている。うがいのできない方については、口腔ティッシュやハミングッドを使用して清潔の維持を、義歯の方については、夜間時にポリドントを使用して、口腔内のケアに努めている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを見極め、声かけを行って支援している。汚染時は、すぐに対処し、本人の負担軽減に努めている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便リズムを把握し、食事時以外にも水分補給を促す。毎日のラジオ体操や健康体操で体を動かしていただくように努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は、午後に行っている。拒否があるときは、無理強いせずタイミングを図り、スムーズに入浴していただけるように心がけている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、体調に合わせてベッド臥床して頂き、対応している。就寝時には、一人ひとりの入眠時間に合わせ、臥床を促している。夜間は、1時間ごとに巡回している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方把握し、指示通りの服薬支援し、症状や体調の変化は、訪問看護師へ報告、主治医の指示も仰ぐ。服薬の変更については、職員に周知徹底し、変更後は、訪問看護師へも報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフと一緒に洗濯物を干し、たたみのお手伝いをしている。いつもありがとうございますとの声かけに達成感や役に立っているという気持ちを持っていたけよう心がけている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、ホーム敷地内の庭で外気浴や、歌をうたって楽しんでいる。さくらの満開時には、野外食を用意している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍でお金を使うことがなく、所持している方については、ご家族に相談しながら対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話は、必ず本人様が話されるよう取り次ぎ、はがきや手紙などは、本人様に伝えるなど適切に対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓し、季節感が出るように飾り付けを行い、居心地よく過ごして頂けるように常に意識している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	音楽のお好きな方については、ラジカセやCDで歌を聴いていただき、読書のお好きな方については、絵本やチラシなどをみて頂いています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の環境整備で、お花のお好きな方については、花への水やりなど、それぞれ好みにあった居室にしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアには美しい花のモチーフや絵柄でネームを飾るなど、ご本人様がわかるように工夫し、テーブルやソファの配席を考慮して、仲の良い方と談話しやすいようにしている。		



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己	外部		
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）			
			④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き活きと働けている。 （参考項目：11, 12）		①ほぼ全ての職員が		
			○	②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		